

## 授業改善等に関する報告書（2024年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

〔2024（前期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グローバル・アートスタディズ f	山本 浩貴	<p>「グローバル・アートスタディズ f」の受講、お疲れさまでした。アンケートを回答してくださった皆さん、どうもありがとうございました。対面での意義があったように感じ、とても良かったです。来年度は（他の授業との兼ね合いで）おそらくオンデマンド形式になると思いますが、フィードバックでいただいた良い部分については、なるべくオンデマンドでも活かしながら授業を進めていきたいと思っています。貴重なフィードバックを、ありがとうございました！アートやデザインの学びは、身の回りのことを深く考えることから始まります。また、暑さに気を付けつつ、ぜひ首都圏や帰省先の美術館での展示を見に行ってみてください。では、後期以降に何かの授業などでお目にかかれることを楽しみにしています。残り少しですが、有意義な夏休みをお過ごしください。</p>
デザイン史	山本 浩貴	<p>「デザイン史」の受講、お疲れさまでした。アンケートを回答してくださった皆さん、どうもありがとうございました。多くの専門である「アート」と、この授業のメイン・テーマである「デザイン」のつながりを理解してくれた方が多かったことは、とても嬉しく思います。アートやデザインの学びは、身の回りのことを深く考えることから始まります。また、暑さに気を付けつつ、ぜひ首都圏や帰省先の美術館での展示を見に行ってみてください。では、後期以降に何かの授業などでお目にかかれることを楽しみにしています。残り少しですが、有意義な夏休みをお過ごしください。</p>
デザイン実習 a	下山 肇	<p>授業に対する全体的な満足度は非常に高く、特に授業の進行スピードや説明のわかりやすさ、板書や資料の質が高く評価されている。「街にある何気ないものにもデザインが施されていることに気づき、散歩やウィンドウショッピングが楽しく感じられるようになった」といった具体的なフィードバックがあり、学生たちは日常生活での視点の変化を感じている。また、「現実にあるものを観察して、それを参考に自分で作る経験が初めてだったため、日常生活でも意識的に観察し、考えるようになった」という声があり、この授業が実践的なスキルや視点の広がりを提供していることが確認できる。さらに、「ディスプレイ作りでは、多くのことを学び、新しい視点を得られた」というフィードバックもあり、この授業を通じて実際の制作活動が学びに大きく貢献していることが伺える。一方で、一部の学生は「もう少し時間が欲しかった」と感じており、今後の授業改善のためには制作時間の調整が必要である。全体として、この授業は学生に実践的なスキルと新しい視点を提供し、日常生活におけるデザインの重要性を深く理解させる有意義な学びの場であったと評価できる。</p>
デザイン実習 d	下山 肇	<p>アンケート回答はないが、まとめレポートより、本授業における学生の役割と成長を評価する上で、以下の点が際立っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創造的なプロセスへの積極的な参加 各学生は、狼の形やアイデアの試行錯誤、ハートや手紙といったシンボルの創作、アイスブレイクの台本作りなど、創造的なプロセスに積極的に参加しており、それぞれがグループ全体の成功に貢献している。学生たちは自身の役割を自覚し、他者との協力を通じて個々の提案を実現している点が評価できる。</li> <li>2. 協働と柔軟性の学び 多くの学生が、他者の意見を柔軟に取り入れ、協働することでより良い結果を生み出す方法を学んでいる。自分の提案が全て採用されなくても、形を変えて組み込むことで自分のアイデアを活かす手段を見つけたことは、大きな成長の証といえる。</li> <li>3. フィジカルデザインと新たな技術の経験 物のデザインにおいて、見た目やフィジカルなクオリティを追求する重要性を学び、実践している点が印象的である。また、AR技術を少しでも体験し、新しい技術への好奇心と挑戦を示していることも評価できる。</li> <li>4. 自身の変化と今後の課題 多くの学生が、自分の成長を実感している一方で、発表や臨機応変な対応といった課題が依然として残っていることも明らかである。今後は、これらの苦手意識を克服し、さらに自己成長を促進するためのサポートが求められる。</li> </ol> <p>総じて、学生たちは創造的なプロセスを通じて多くのことを学び、自身の成長を実感していると言える。</p>

〔2024（前期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デザイン入門 a	下山 肇	<p>授業に対して全体的に高い評価が寄せられている。特に、授業内容とシラバスが一致していた点や、教員の説明や板書、資料のわかりやすさが高く評価されている。「デザインに使う言葉や注意事項を学び、視野が広がった」という具体的なフィードバックがあり、授業が実践的なスキルの向上に寄与していることがわかる。</p> <p>また、学生はデザインに対する新たな視点を得ており、「構成美の要素を学び、レタリングの技術が身についた」といった声も見られ、授業が学生に実践的な力を提供したことが確認できる。</p> <p>一方で、一部の学生は授業の進行スピードを速く感じたり、予習復習の取り組みが少なかった点が課題として挙げられる。</p> <p>全体として、この授業は学生に新しい視点を与え、実践的なスキルを身につけさせることに成功しており、特にデザインの理論的理解が深まったことがうかがえる。今後は、授業外での学習を強化することで、より一層の学びを促進できるだろう。</p>
デザイン入門 a	下山 肇	<p>授業に対して全体的に高い評価が寄せられている。特に、授業内容とシラバスが一致していた点や、教員の説明や板書、資料のわかりやすさが高く評価されている。「デザインに使う言葉や注意事項を学び、視野が広がった」という具体的なフィードバックがあり、授業が実践的なスキルの向上に寄与していることがわかる。</p> <p>また、学生はデザインに対する新たな視点を得ており、「構成美の要素を学び、レタリングの技術が身についた」といった声も見られ、授業が学生に実践的な力を提供したことが確認できる。</p> <p>一方で、一部の学生は授業の進行スピードを速く感じたり、予習復習の取り組みが少なかった点が課題として挙げられる。</p> <p>全体として、この授業は学生に新しい視点を与え、実践的なスキルを身につけさせることに成功しており、特にデザインの理論的理解が深まったことがうかがえる。今後は、授業外での学習を強化することで、より一層の学びを促進できるだろう。</p>
絵画実習 a	織田 涼子	<p>進行スピードは適切で、授業内容はほとんど理解できたという評価でした。実習を通して深い観察力を身につけ、描写力を向上できたことは何よりです。板書や配布資料は概ね良い評価でしたが、説明の言葉や声は平均より低い評価でした。今後はmanabaの活用および全体説明の方法を改善したいと思います。</p>
絵画入門 a	織田 涼子	<p>総合的な満足度は平均より高く、授業内容はほとんど理解できたという評価でした。デッサンや着彩の知識・技術を身につけ、成長を実感できたことは何よりです。板書や配布資料の評価は概ね良かったものの、説明の仕方や双方向授業への取り組みは改善し、実習中やmanaba上で、質問しやすい状況を作りたいと考えます。</p>
絵画入門 a	織田 涼子	<p>説明は分かりやすく、授業内容は概ね理解できたという評価でした。各自が意欲的に取り組み、デッサンなどの基本的な知識や描き方を身につけ、成長を実感できたことは何よりです。双方向授業の工夫は概ね良い結果でしたが、今後もmanabaを活用し、実習中は質問しやすい状況を作るなど、さらに改善したいと思います。</p>
現代美術論	山本 浩貴	<p>「現代美術論」の受講、お疲れさまでした。</p> <p>アンケートを回答してくださった皆さん、どうもありがとうございました。現代アートについて関心を持ってくれた方が多かったことは、とても嬉しく思います。</p> <p>アートの学びは、身の回りのことを深く考えることから始まります。暑さに気を付けつつ、ぜひ首都圏や帰省先の美術館での展示を見に行ってください。</p> <p>フィードバックの方法についても、ご意見をいただき、たいへん参考になります。</p> <p>たしかに音声だけだと伝わりにくい部分があると思いますので、来年度以降は画像などを共有しながらフィードバックを行いたいと思います。</p> <p>オンデマンドの授業を担当することは来年度以降もありますので、とても貴重なフィードバックでした。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、後期以降に何かの授業などでお目にかかれることを楽しみにしています。</p> <p>残り少しですが、有意義な夏休みをお過ごしください。</p>
西洋近代美術史入門 a	齋藤 達也	<p>授業に対する意見をいただきありがとうございます。少しずつ改善できればと思います。</p>
西洋近代美術史演習 a	齋藤 達也	<p>授業に対する意見をいただきありがとうございます。少しずつ改善できればと思います。</p>
西洋近代美術史特講 a	齋藤 達也	<p>授業に対する意見をいただきありがとうございます。少しずつ改善できればと思います。</p>

〔2024（前期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
西洋美術史演習 a	駒田 亜紀子	回答をありがとうございます。演習は、課題や授業でのディスカッション、美術館の見学授業など、講義のような座学とは異なるアプローチが必要な授業です。多角的に知識や能力を高めることを狙っていますが、効果が実感できるのは、後期になると思います。頑張りましょう。
西洋美術史特講 a	駒田 亜紀子	今学期の特講のテーマは、国立西洋美術館で開催されていた展覧会とも関連があったので、その意味では、より具体的な作品理解が進んだと思われます。皆さんも、そのような意味で、意欲的に学修に取り組んでおられたことが、成果にも表れていると思います。
西洋美術史入門 a	駒田 亜紀子	西洋美術史入門aでは、皆さんに比較的近い薄いの、日本ではほとんど見る機会のない作品を多く扱います。その意味で、いろいろと難しく感じたり、親しみがわかない点もあったかと思えます。しかし、後期に続く流れの中で、美術の歴史的展開を理解することに繋げてほしいと思います。
卒論ゼミ a	串田 紀代美	前期の授業、お疲れさまでした。授業アンケートの回収率が70%以下とそれほど高くないのが気になりますが、提出して下さった方は概ね授業に満足して下さり、一人ひとりの成長を実感していらっしゃるのではないかと推察します。就活や資格試験の準備などで卒論に集中できなかった方もいらっしゃると思います。後期は、ぜひ計画的に卒業論文の執筆を進め、余裕をもって提出しましょう。皆さんが日々成長していることを、今学期は実感しました。ご自身を過小評価せず、「できた」ことに目を向けつつ学修を進めていただければと思います。
卒論ゼミ a	織田 涼子	アンケートの回答はありませんでした。
卒論ゼミ a	椎原 伸博	アンケートの回収率が低かったため、後期は是非アンケートを提出してください。少ない回答のなかで、自主的に探求する力が深まったという意見がありました。その自覚を、アンケートを出さなかった人たちは持ち得たでしょうか？これから3ヶ月で卒論を書き上げなければいけません。卒論こそ、自主的な学びによって成立しますので、気を引き締めて卒論を書きあげましょう。
卒論ゼミ a	児島 薫	アンケートをお願いしなかったため、回答が少なくなってしまいました。後期はよろしく願います。
卒論ゼミ a	武笠 朗	1名しか回答がなかったのは、大いに反省すべきである。次回は必ず授業時間内に実施するようにしたい。後期bでは、2回目の中間発表時に、学生が直接感想等を言えるように工夫したい。また卒論個人指導も回数を増やしたい。より直接的に指導が届くようにと具体策を考えている。
卒論ゼミ a	下山 肇	本授業は回答率が低いですが、回答者は非常に高く評価している。授業内容、進行スピード、説明のわかりやすさ、双方向性の工夫、板書や資料の質、教員の声の聞き取りやすさに至るまで、すべての項目で100%の満足度が報告されている。特に、回答者が「授業内容とシラバスの一致度」や「双方向の授業設計の工夫」を高く評価している点が印象的である。また、回答者はこの授業を通じて自身の成長を実感しており、さらにこの分野を深く学びたいという強い意欲を持っていることが確認できる。今後の課題としては、回答率の向上が挙げられる。現在の回答率は**14.3%**であり、他の学生の意見が反映されていないため、より多くの学生からのフィードバックを集めることが重要である。全体として、授業内容は非常に高い水準であり、学生にとって実践的かつ意欲を高める授業であることが確認できる。
卒論ゼミ a	馬淵 美帆	就活などで忙しい中だったと思いますが、受講者の皆さんは意欲的に取り組んでくれたと感じています。後期はいよいよ卒論執筆を進めていただくので、より個別的な指導をしていく予定です。
卒論ゼミ a	齋藤 達也	授業に対する意見をいただきありがとうございます。少しずつ改善できればと思います。
卒論ゼミ a	駒田 亜紀子	回答をありがとうございます。説明の分かりやすさについては、各学生の取り組むテーマが異なるため、難しい部分もありますが、今後の改善に尽力します。
日本近代美術史演習 a	児島 薫	みなさんよく意欲的に取り組んで、成長を実感できたことと思います。授業のスピードは速すぎたか、あるいは遅すぎたか、どちらだったでしょうか。
日本近代美術史特講 a	児島 薫	入門とは違ってだいぶ個別のテーマに踏み込んだので、難しく感じた部分があったかもしれませんが。授業の内容に関連する展示を香雪記念資料館で10月におこないますから参考にしてください。

〔2024（前期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本近代美術史入門 a	児島 薫	みなさん、ご自分に厳しく評価をつけているようですが、新しいことをたくさん知ったわけですから、ぜひ自信を持ってください。後期の「入門b」は続きの時代を取り上げます。ぜひ後期も履修してください。
日本美術史演習 a	馬淵 美帆	今年度は見学を多く行い、授業内で発表準備にあてる時間がやや少なかったのですが、受講者の方におおむね満足していただけたようでよかったです。皆さんからいただいた回答を元に、次年度の授業方法を工夫していきます。自分で発表を組み立てて行うことや、他の人の発表にコメントすることは社会に出てからも役立つ重要なスキルですので、今後も意識的に取り組んでいって下さい。
日本美術史特講 a	馬淵 美帆	オンデマンドの授業で受講しにくい点もあったかと思いますが、毎回の課題など、受講者の皆さんはとてもよく書いて下さっていたと感じます。受講上の希望や質問をすぐに受けにくく、不満を感じた方もおられたことと思います。皆さんからいただいた回答を元に、後期の特講bの方法を工夫していきます。
日本美術史入門 a	馬淵 美帆	大学での初めての授業で、情報量も多く、大変に感じた方もいたことと思います。入門aの内容は、今後美術史を学ぶ上での基礎となるので、資料を見返したり図書館の本で復習するなどを積極的に行っていただきたいと思えます。授業での配布資料の形や内容などは、学科全体の方針もありますが、今回いただいた回答を元に改善をはかっていきます。授業中は、自主的にメモを取ることを心掛けて下さい。
美学演習 a	椎原 伸博	グループ学習の手応えを強く感じている学生が多くいました。この作業は、コミュニケーション力を高めることも意図しています。無論、卒論は個人で完成させなければなりません、他者とのコミュニケーションから得られた知識が、今後役立つことが多くなるでしょう。後期も気を引き締めて授業をやっていきましょう。
美学特講 a	大澤 慶久	半年間、本当にお疲れ様でした。授業では、常に哲学的、美学的な思考を要する内容を扱い、最後の10分～15分程度で自身の見解をまとめるというアクティヴな取り組みが求められました。アンケート結果を拝見すると、全体としておおむね良好な評価をいただけたようで、これも受講者の皆さんの積極的な参加のおかげだと感謝しています。  説明の分かりやすさやパワーポイントおよび配布資料の分かりやすさについては高い評価をいただきました。一方で、内容の理解度は「ほぼ理解できた」と「まあまあ理解できた」という回答が多くを占めました。ですが、皆さんのリアクションペーパーを拝見する限り、全体的に講義内容は十分に消化していると感じられました。美学の分野で十全な理解を得ることは容易でないかもしれませんが、むしろ疑問点や腑に落ちない点などを出発点として、さらなる思索を深めていただければ幸いです。  今後も授業の質の向上に努めてまいります。貴重なご意見をありがとうございました。
美学入門 b	椎原 伸博	本年度からの新カリキュラムでは、美学入門 b の開講時期が二年の前期となるため、その端境期ということで、受講者が少なかったです。そのなかで、2回の対面授業とディスカッションは有意義なものであったと評価しています。
仏教美術史演習 a	武笠 朗	わずかに3人しか回答がなかった。次回から授業時間内に回答させるようにしたいと考える。研究発表中心の授業だが、その際学生諸君の意見感想を直接聞けないのは問題かと感じている。時間の都合上、コメントペーパーを利用しているのだが、直接討論的にできるように何らかの工夫をしてみたいと考える。
仏教美術史特講 a	武笠 朗	今回もアンケート回答を促すのを忘れたため回答数が少なかった。次回は授業時間内に回答させるようにしたい。講義主体の科目なので、どうしても双方向性の確保が問題となる。こちらがわかっているだろうと思込んでいることが、実は理解されていないことが多いので、質問だけでも、こちらに届くようにmanaba等利用で工夫したい。
仏教美術史入門 a	武笠 朗	約半数の回答。回答を促すことをしなかったの、やむを得ない数字であろう。次回は、なるべく授業時間内に回答させるようにしたいと考える（なかなかいっぱいっばいでむずかしいが）。双方向性の確保はいつも課題である。小テストを通じて質問等を受け付けているが、それへの返しをもう少し充実させたい。ただなかなか時間がなくてむずかしいが。質問があったらmanabaにどうぞ。

〔2024（前期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
民俗芸能演習 a	串田 紀代美	<p>前期の民俗芸能演習aでは、学生のみなさん一人ひとりが主体的に課題に取り組むことができました。授業アンケートの回収率が67%とそれほど高いことが気になりますが、おおむね授業に満足した方が多かったことをアンケート結果から確認しました。この点を高く評価したいと思います。論文を読むのが苦手な方、プレゼンテーションで緊張し「失敗した」と思った方もいらっしやるとは思いますが、すべての経験がみなさんの成長を促す一つのきっかけになったと思います。「結果」よりも「プロセス」が重要であるということ、再確認してください。課題が大変で途中であきらめてしまった方もいるかもしれませんが、1度の失敗を気にせず、学生のうちは何度でも挑戦することが可能です。後期も、このチャレンジ精神で大きな成長を遂げてくださることを楽しみにしています。</p>
民俗芸能特講 a	串田 紀代美	<p>前期の14回の授業では、毎回の課題提出や記述式の学期末テストが大変だったと思いますが、多くの方が最後まであきらめず学修を継続してくださいました。授業アンケート結果では、90%を超える履修者のみなさんが満足していることがわかりました。日本の伝統文化は、自然に継承していくわけではないということ、学生の皆さんが理解してください、少しでもご自身の視点から興味を持ってくださったことに感謝しています。これからも、日本の伝統文化を少しだけ思いやる気持ちを持っていただけたら嬉しいです。</p>
民俗芸能入門 a	串田 紀代美	<p>1年生のみなさんにとってオンデマンド型科目は、動画視聴のトラブルや課題提出のわずらわしさがあり、大変だったと思います。大半の方が、最後まで学びを継続することができました。授業アンケート回収率が70%以下という点がやや気になりますが、8割以上の方が授業の内容に満足して下さったことを知り、胸をなでおろしています。日本の伝統文化、特に民俗学や民俗芸能は、私たちが努力しなければ今後真っ先に消え去ってしまう存在です。授業を通して、「文化の弱者」ともいえる民俗学・民俗芸能に対し思いやりの気持ちを向けてくださる方が少しでも増えてくださると嬉しいです。後期の授業も引き続きオンデマンド型ですが、最後まで一緒にがんばりましょう。</p>